

東海北陸厚生局長 殿

学校法人 金沢医科大学
理事長 山下 公

金沢医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき平成21年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	43人
--------	-----

 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	307人	35.0人	316.4人	看護補助者	110.0人	診療エックス線技師	0.0人
歯科医師	8人	0.0人	8.0人	理学療法士	18.0人	臨床検査技師	60.0人
薬剤師	46人	0.0人	46.0人	作業療法士	6.0人	臨床検査技師	0.0人
保健師	3人	0.0人	3.0人	視能訓練士	9.0人	衛生検査技師	0.0人
助産師	17人	0.0人	17.0人	義肢装具士	0.0人	その他	0.0人
看護師	586人	33.0人	610.6人	臨床工学士	11.0人	あん摩マッサージ指圧師	0.0人
准看護師	4人	4.0人	6.1人	栄養士	7.0人	医療社会事業従事者	6.0人
歯科衛生士	6人	1.0人	6.9人	歯科技工士	3.0人	その他の技術員	20.0人
管理栄養士	15人	0.0人	15.0人	診療放射線技師	33.0人	事務職員	76.0人
						その他の職員	53.0人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たりの平均入院患者数	653.6人	3.5人	657.1人
1日当たりの平均外来患者数	1,084.3人	43.6人	1,127.9人
1日当たりの平均調剤数			1,043.8剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を歴日で除した数を記入すること。
- 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ歴日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	6人
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	4人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	潰瘍性大腸炎に対する白血球吸着療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(消化器内科) 重症型ないし急性再燃型の潰瘍性大腸炎で、従来のサラゾピリン及びステロイド投与に抵抗性を示す症例に対して、寛解導入を目的として白血球吸着療法を行う。			
医療技術名	早期消化器癌に対する内視鏡的粘膜切除とレーザー照射治療	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要(消化器内科) 早期の表在型食道癌、胃癌及び大腸癌に対して、比較的大きい(2cm以上、6cm以内)病変であっても、内視鏡的粘膜切除を計画的分割法で行い、小遺残ないし切除周囲再発にはレーザー照射を追加治療する。			
医療技術名	原発性肝癌に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要(消化器内科) 原発性肝癌は肝硬変に併発し、手術適応が困難な症例がほとんどであるので、ラジオ波を用いて安全域を含めた完全焼灼を行う。			
医療技術名	ロータブレード	取扱患者数	71人
当該医療技術の概要(循環器内科) 石灰化病変を有する狭心症や心筋梗塞の患者に対して、従来のPTCAでは治療成績が良好でない。ロータブレードは石灰化病変やびまん性病変、硬い病変に対する治療に有効である。現在、ロータブレードとステントを併用し、石灰化病変や複雑病変を有する患者に対しても治療成績が良好である。			
医療技術名	光干渉断層撮影(OCT)	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要(循環器内科) 冠動脈内にイメージワイヤー(近赤外線)を挿入し、オクルージョンバルーンカテーテルを用いて血流を遮断することで、血管内超音波の約10倍の解像度の画像を得ることができる。血管内超音波では評価困難な線維性被膜が菲薄化した不安定プラークの識別や、高い画像解像度を利用して薬剤溶出性ステント治療後の微小新生内膜の評価ができる。			
医療技術名	心房細動に対するカテーテルアブレーション	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(循環器内科) 心房細動は肺静脈を中心とする巣状興奮による発生要因と拡大・変性した左房筋を中心とする器質による維持の要因がある。本症例に対して高周波を用いたカテーテルによる肺静脈離断術、complex fractionated atrial electrogram (CFAE)を指標とする左右心房焼灼術、線状焼灼法などを病状に応じて組み合わせることで、治療成績は良好である。			
医療技術名	心臓再同期療法(CRT)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要(循環器内科) 慢性心不全が重症化する機序として、伝導傷害に伴う心室同期不全が様々な血行動態の悪化を招き、心筋にダメージを与え、その結果さらに伝導傷害を助長させるという悪循環の存在がある。この悪循環を断ち切る治療法がCRTである。通常のペースメーカーと同様にリードを右室心尖部に留置し、それに加えて左室側壁にもリードを留置することで、両方から左室を挟み込むようにペーシングし、収縮タイミングの時相のズレを解消させる。			
医療技術名	腎生検組織モノクローナル抗体染色	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要(腎臓内科) 従来、腎生検組織の検査は、光顕、電顕に加えて蛍光抗体による免疫グロブリン補体の染色のみが保険適用されてきたが、糸球体構成成分及び病態関連分子に対するモノクローナル抗体の検索によって、より高度の診断が可能である(C4d, C3d, HLA-DR, CoL4 α 5/ α 2, HLA-G1, CD45, CoL1)			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腎移植免疫モニタリング	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(腎臓内科) 高感度酵素抗体法を用いて腎移植時の血清マーカー(HLA-G5, アディポサイトカイン)による免疫抑制状態の評価を行う。			
医療技術名	遺伝子解析による遺伝性内分泌疾患の診断	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(内分泌・代謝科) 多発性内分泌腫瘍(MEN)I型, 多発性内分泌腫瘍(MEN)II型, 若年発症成人型糖尿病(MODY)3につき, 患者末梢血白血球からのゲノムDNAまたは摘出組織からのcDNAを用い, PCR産物のシーケンスにより遺伝子診断を行っている。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液・リウマチ膠原病科) 再発・難治性の非ホジキンリンパ腫2例に対し, 同種造血幹細胞移植を行った。幹細胞のソースは非血縁骨髄1例, 臍帯血1例であった。1例は現在まで再発や重篤な合併症なく, 社会生活に復帰されている。1例は残念ながら移植後の感染症にて死亡された。			
医療技術名	胎児心エコー診断	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要(小児科) 在胎20-30週の期間に心臓病の診断(心内奇形, 血管奇形)を行い, 出生後起こりうる可能性を想定し当院産科, 胸部外科, 小児科, 麻酔科との連携の上, 心臓病のお子さんの危機的な状況を回避する。			
医療技術名	幼少児に対する経皮治療カテーテル	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(小児科) 幼少児の先天性肺動脈弁狭窄, 術後肺動脈弁狭窄, 末梢性肺動脈狭窄に対し, 大腿静脈アプローチによるカテーテルバルーン拡張術を行ない, 開心術による治療と同等の成績を得ている。さらに, 動脈管依存性心疾患に対して, 新生児期に動脈管ステント留置術を行ない, 緊急手術を回避し, 症状の安定化を行なっている。			
医療技術名	横隔膜ヘルニアに対する集学的治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(小児科) 胎内診断にて左室サイズ(胸部に対する僧帽弁輪径, 左室拡張期末期径), 患側肺動脈の低形成の状況を判断し, 重症度分類に応じた治療方針を立て, 当院小児外科, 小児科, 産科とともにチームによる集学的な治療を行なっている。			
医療技術名	小児固形腫瘍に対する大量化学療法および自家末梢血造血幹細胞移植による救済療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(小児科) 標準治療の確立されていない脳腫瘍および再発高危険群に対して, 通常量の化学療法中にG-CSF投与下に自己末梢血造血幹細胞を細胞分離装置により採取し, 凍結保存する。その後大量化学療法実施後に移植し, 造血の救済を計る。さらに, 造血力の低下した再発例への維持化学療法実施のための造血支持療法を行う。平成20年度に1例, 平成21年度に1例実施。			
医療技術名	携帯型多用途生体アンプを用いた終夜睡眠脳波の測定	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(神経科精神科) 本技術の特徴は, 自由に運動可能な状態で, 睡眠脳波の記録, すなわち, 脳波・筋電図・呼吸・心電図など多くの生体現象を記録することが可能である。また測定データをパソコンと接続してモニターしたり, 編集が可能である。さらに記録終了後速やかに睡眠状態を把握し, 睡眠ダイアグラムを自動的に作成することが可能である, などの機能があり, 従来の終夜睡眠脳波測定時のような, 験者・被験者の負担が大幅に軽減されることにある。本技術は, 睡眠障害のみでなく, てんかんの診断治療にも寄与するところが多い。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	精神疾患患者における経頭蓋磁気刺激の効果	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(神経科精神科) 経頭蓋磁気刺激は高次脳機能を調べる目的で開発された技術であるが、最近ではパーキンソン病、うつ病、統合失調症の幻覚妄想、強迫性障害など、精神神経疾患に対する治療法として注目されている。とくにうつ病の抑うつ気分、統合失調症の幻聴に対して有効であるという報告が最近多い。実際の方法としては、磁気刺激装置で発生した磁気を、コイルを頭皮に当てることによって頭蓋内に数秒から数十秒にわたって加える。これを1日1回から数回、数日間にわたって行う。これまでの電気けいれん療法に比べ、痙攣発作が起きない点と、意識喪失がない点で有用な治療法といえる。			
医療技術名	認知症疾患患者の神経心理学的検査	取扱患者数	人
当該医療技術の概要(神経科精神科) 認知症疾患および脳器質性障害の患者診断や治療また経過や予後のfollow-upにおいては意識レベル、知能、注意、記憶・記憶などの測定や、個々の脳部位の巣症状に関する神経心理学的検査など、きめ細かい精神症状の評価が不可欠である。当科では知能テストとしてWAIS-III、Raven's progressive matrix(成人用)、WISC-III(小児用)、WPPSI(幼小児用)、記憶・記憶テストとしてWMS-R、MMS、Rey's auditory verbal learning test およびReyの複数図形記憶テスト、Bentonの視覚記憶テスト、単語再生テスト、三語記憶テスト、前頭葉機能検査として、Wisconsinカード分類テスト、Word Fluency Test、失語症検査としてSLTA、WAB、Token Test、その他失行に関する高次脳機能検査など各種の神経心理学的検査を行い、診療に役立てている。			
医療技術名	磁気テープ記録による携帯用24時間脳波記録装置、フェルナー及び機形電極による特殊脳波記録、さらにMRIやSPECTによる脳画像検査を用いた高度のてんかん医療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(神経科精神科) てんかんの診断上、頭皮上電極を用いた通常の脳波記録だけによるてんかん性発作波の検出には限界がある。当科では主に難治性てんかん患者を対象として、磁気テープ記録による携帯用24時間脳波記録装置やテレメーターの利用、また時に特殊電極としての蝶形骨電極を利用して脳波記録を行い、てんかん性発作波の検出の向上を計っている。またてんかんの原因病巣の検査として、X線CTだけでなくMRIやSPECTによる脳画像検査を用い、これらの神経生理学的また神経放射線学的検査所見を総合して、てんかんの診断やてんかん焦点部位の決定を行い、てんかんの治療に役立てている。			
医療技術名	児童・思春期の精神疾患患者及び不安性障害や強迫性障害の神経症患者に対するチーム精神療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要(神経科精神科) 摂食障害、注意欠陥多動障害、自閉症などに代表される児童や思春期の精神疾患患者及び不安性障害や強迫性障害の神経症患者に対して当科では理化学的検査や心理検査を含めた総合的臨床診断の上で、治療面でも薬物治療に加えて、医師と臨床心理士のチームワークの下に認知行動療法や家族療法などの高度な精神療法を行っている。			
医療技術名	Virtual Bronchoscopy と極細径気管支鏡を用いた肺生検	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(呼吸器外科) 最近CT発見の肺腫瘍が増加してきており、これらは通常のX線透視では陰影の把握が困難である。Virtual Bronchoscopy はCTを用いて抹消気道を3次元的に再構築するもので、これを腫瘍の誘導気管支の同定に用いることで診断率を改善させることができる。当院では、Virtual Bronchoscopy と極細径気管支鏡を組み合わせることで肺抹消小型腫瘍の診断を行っており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	肺癌に対する完全胸腔鏡下肺葉切除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(呼吸器外科) 肺癌例に対して、上葉または中葉切除の場合は第4肋間前腋窩線に、下葉切除の場合は第5肋間中腋窩線に3~4cm皮膚を切開した上でwound retractorを装着し、他に2個のポート孔を用いて、TVモニター下に胸腔鏡下肺葉切除術を行っている。この肺癌例に対する皮膚切開の少ない低侵襲手術は、術後の疼痛が少なく、回復が迅速で、肺機能の損失が少ない結果を得ている。			
医療技術名	肺癌に対する胸腔鏡補助下気管支形成術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(呼吸器外科) 肺癌例に対する気管支形成術は、気管支を切断し再縫合を行う高度な縫合技術を要する術式である。縫合不全や縫合部狭窄を惹起しやすいため、これまで大きな開胸創のもとに施行されてきた。当科では、この気管支形成術に胸腔鏡手術を導入し、開胸創をより小さくし侵襲を少なくすることにより、患者の術後疼痛を抑え早期の回復をはかっている。			
医療技術名	口唇口蓋裂のチーム医療	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要(形成外科) 口唇口蓋裂患者は、生下時より形態的異常とともに、成長に伴う鼻咽喉閉鎖機能異常による構音障害、耳管機能異常による中耳炎、顎裂による歯列不正や顎発育異常による咬合異常を呈してくる。これらの複合異常に対して、形成外科による初回唇裂・口蓋裂手術による口唇・口蓋の解剖的再建に引き続き、耳鼻咽喉科による耳管機能、聴覚機能の検査および治療、そして言語訓練、さらに矯正歯科による歯科矯正と形成外科による顎裂部への骨移植や上・下顎骨切りによる顎移動で歯列や咬合異常に対する再建など、患児の発育に伴い生じる異常に対して集学的に治療を行っている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	電子線照射によるケロイド治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要(形成外科) ケロイドの放射線治療の一方法として、病的に電子線照射を行うものである。本法は、従来のデルモパン照射法に比較し、エネルギーが強く副作用がないため、有効な治療法である。			
医療技術名	腎移植術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(泌尿器科) 慢性腎不全の根治療法。21年度は生体腎移植1例 脳死体からの献腎移植1例施行した。			
医療技術名	羊膜移植術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(産科婦人科) 羊膜は抗原性のない組織であり、ヒト眼表面の再構築に使用し有効であったとする報告が1995年にMiami大学のTseng,SC教授らによりなされた。その後、羊膜は様々な消炎性のサイトカインを放出し新生血管の抑制、増殖組織の抑制の効果もあることが判明し、本邦でも一部の施設で使用され始めている。当科においても1999年に大学倫理委員会より許可を得ることが出来たため、産婦人科の協力により羊膜の提供を受け、難治性の外眼部疾患患者に羊膜移植術を開始している。			
医療技術名	新生児代謝異常検査	取扱患者数	300人
当該医療技術の概要(産科婦人科) この検査は新生児に尿をガスクロマトグラフィー質量分析(GC/MS)法により検査することで、22項目の代謝異常症を早期に診断し、もし異常があれば治療を行い、心身障害の発症を予防することが可能である。採尿はろ紙をおむつにはさんでしめらせるだけなので、新生児には負担はかからない			
医療技術名	卵巣動脈血流解析による排卵予知	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要(産科婦人科) 体外受精一胚移植を含めたhCGを用いた排卵誘発時に、卵巣動脈の血行動態をカラードップラー法で測定・解析し、hCG投与1～3時間後の卵巣血流量をみて排卵が順調に行われるかどうかを予測する方法である。非侵襲的な方法であり、測定時間も短く、患者にとつての負担はほとんどない。卵巣血流量解析からhCG投与36時間後の順調な排卵が予測できない場合には、高額な費用がかかる体外受精一胚移植をキャンセルするなど、体外受精一胚移植の成績向上および医療経済学的に有用な方法である。			
医療技術名	腎、肝移植後ならびに透析患者の妊娠分娩管理	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(産科婦人科) 移植後患者や透析患者の性機能の回復は、本人や家族にとり大きな福音である。しかし、妊娠に伴う移植臓器への影響、拒絶反応、精神的負担などの問題がある。国内外で極めて稀な腎移植後の自然排卵による品胎妊娠、死体腎移植および本邦初の肝移植後などの妊娠前から妊娠中、分娩および分娩後と長期間の厳重な管理を行っている。			
医療技術名	黄体化未破裂卵胞に対するG-CSF療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(産科婦人科) 不妊症の一般的な治療のひとつに、排卵誘発剤のクロミフェン・サイトレートとhCGを使用した排卵を促進させる治療法がある。この治療を行うと卵を持った卵胞は直径18mm以上に発育し、hCGの注射により48時間以内に排卵を認めるのだが、なかには卵胞は発育するが排卵せずに黄体化未破裂卵胞になる症例も少なくない。本治療は排卵誘発の際に黄体化未破裂卵胞を認めた症例に対しG-CSFを投与し、高い確率で排卵を認めるだけでなく正常排卵例と同程度に妊娠成立を認める有用な治療である。			
医療技術名	子宮頸部上皮内腫瘍・尖圭コンジローマに対するフェノール療法	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要(産科婦人科) 子宮頸癌はヒトパピローマウイルス(HPV)感染によって誘発されることが明らかになっている。子宮頸癌検診で見つかる異常の多くは上皮内腫瘍(CIN)であるが、発見されても治療法はないため、初期のCINの場合は自然治癒するまで外来通院させるしか方法がない。また、別のタイプのHPV感染が原因の尖圭コンジローマに対する簡単な外来治療法も存在しない。CINや尖圭コンジローマ患者に対する簡単かつ確実な治療法として、我々はフェノール療法を開発し治療をおこなっている。現在のところ、治療効果は100%である。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ナビゲーションシステムを応用した耳鼻咽喉科、頭頸部手術	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要(耳鼻咽喉科) 手術部位を画像上にリアルタイムに表示するナビゲーションシステムは、今日飛躍的に進歩したコンピュータによる手術誘導支援装置で、より安全で、確実な手術が行なえる。耳鼻咽喉科、頭頸部領域は解剖学的に複雑で、個人差も多く、危険部位が周辺に位置し、依然医療事故は後をたたない。昨年は、耳、鼻、咽喉頭、頭頸部の手術24例に応用し、その有用性と安全性が確認された。			
医療技術名	人工内耳植え込み手術ならびに術後リハビリテーション	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要(耳鼻咽喉科) 昨年は、人工内耳植え込み手術症例はなかったが、過去に埋め込み手術を行った患者のリハビリテーションを7例の患者に対して行い、良好な経過を得ている。			
医療技術名	安静呼吸下での肺気量、気道抵抗測定	取扱患者数	4000人
当該医療技術の概要(適応症:喘息、肺気腫)(呼吸器内科) 従来、患者の協力と努力を要した肺機能検査を安全換気下で行う。低肺機能、老人、小児でも検査を行うことができ、肺疾患の診断に有用である。			
医療技術名	鼻Acoustic reflectionによる上気道特性の測定	取扱患者数	140人
当該医療技術の概要(呼吸器内科) 両鼻から音波を入れ反射波を解析することにより、上気道の断面積、コンプライアンスを測定する。睡眠時無呼吸症候群の上気道閉塞部位、つぶれやすさを評価することができ、治療方針の決定に有用である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要()			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要()			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要()			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要()			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ベーチェット病	39人	・膿疱性乾癬	3人
・多発性硬化症	49人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・重症筋無力症	37人	・原発性胆汁性肝硬変	27人
・全身性エリテマトーデス	101人	・重症急性膵炎	2人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	61人
・再生不良性貧血	14人	・混合性結合組織病	12人
・サルコイドーシス	40人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	19人	・特発性間質性肺炎	5人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	61人	・網膜色素変性症	24人
・特発性血小板減少性紫斑病	33人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	16人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	70人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	18人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	16人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	7人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	4人
・脊髄小脳変性症	39人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・クローン病	34人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	13人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患	115人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	2人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	1人
・後縦靭帯骨化症	87人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	11人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	2人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	10人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症	35人	・黄色靭帯骨化症	4人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4人	・間脳下垂体機能障害	52人
		合計	1089人

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には業務報告を行う3年前の4月以降に健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供したものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の 状況	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。
	<input type="checkbox"/> 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査 部門と開催した症例検討会の開催頻度	1 か月に 6 回程度 (臨床－病理部門：5 回 臨床－検査部門：1 回)
剖 検 の 状 況	剖検症例数 67 例 剖検率 20.6 %

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	長時間勤務と高血圧発症との関連の追跡研究	中村 幸志	健康管理センター	1,200,000 円	補委 文部科学省
2	各種栄養素摂取の長期変化と生活習慣病発症に関する大規模疫学研究	櫻井 勝	健康増進予防医学(公衆衛生学)	100,000 円	補委 文部科学省
3	短縮ミトカインを用いた外科的手術が必要な早期胃癌の新しい診断法	伊藤 透	内視鏡科	800,000 円	補委 文部科学省
4	カナハ病の実態把握とケア指針作成のための研究	井上 義人	人類遺伝学研究部門 生化学	2,000,000 円	補委 厚生労働省
5	知的クラスター創成事業(第II期)ほくろく健康創造クラスター「血液中の有核赤血球の回収・DNA分析システムの開発	高林 晴夫	FDD-MBセンター	31,000,000 円	補委 文部科学省
6	新規ステロイド標的分子GLCCI1の機能解析	石垣 靖人	RIセンター	200,000 円	補委 文部科学省
7	ウイルス感染に対するスチン系薬作用の分子基盤の解明	石垣 靖人	RIセンター	500,000 円	補委 文部科学省
8	慢性腎不全でのヘパシジン発現制御機構の解明ー骨髄造血関連因子の影響ー	友杉 直久	先進医療研究部門	1,200,000 円	補委 文部科学省
9	新規疾患,IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究	友杉 直久	先進医療研究部門	1,000,000 円	補委 厚生労働省
10	日本脳炎ワクチン未接種乳幼児の感染リスクの予見:基礎データ収集	村上 学	分子腫瘍学研究部門	1,200,000 円	補委 文部科学省
11	大腸癌の細胞極性の制御異常と悪性化促進におけるRhoGDIβの機能解析	太田 隆英	分子腫瘍学研究部門	1,000,000 円	補委 文部科学省
12	遺伝子の中身をのぞこう	竹上 勉	分子腫瘍学研究部門	480,000 円	補委 (独)日本学術振興会
13	新規疾患,IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究	竹上 勉	分子腫瘍学研究部門	1,000,000 円	補委 厚生労働省
14	我が国における日本脳炎の現状と今後の予防戦略に関する研究	竹上 勉	分子腫瘍学研究部門	1,900,000 円	補委 厚生労働省
15	ウイルス感染症の診断、疫学および予防に関する研究	竹上 勉	分子腫瘍学研究部門	0	補委 厚生労働省
16	調光型特定波長吸収遮光眼鏡の視機能改善効果と白内障患者のQOLへの影響	坂本 保夫	感覚機能病態学(眼科学)	1,000,000 円	補委 文部科学省
17	微波、準微波帯電波の眼部ばく露による影響の指針値妥当性の再評価	佐々木 洋	環境原性視覚病態研究部門	23,000,000 円	補委 (財)テレコム先端技術研究支援センター
18	新生児中枢神経発達に影響を及ぼす母乳シグナル伝達物質の網羅的解析	島村 英理子	分子細胞形態科学(解剖学)	2,800,000 円	補委 文部科学省
19	経胎盤的母胎間シグナル伝達による胎児脳の発育調節	八田 稔久	分子細胞形態科学(解剖学)	800,000 円	補委 文部科学省
20	活性酸素って知ってる?ー不老長寿の献立はできるのかー	島田 ひろき	分子細胞形態科学(解剖学)	480,000 円	補委 (独)日本学術振興会
21	はやく大きくなあれー我が子に贈るメッセージー'09	八田 稔久	分子細胞形態科学(解剖学)	480,000 円	補委 (独)日本学術振興会
22	赤血球脱核誘導方法の開発	八田 稔久	分子細胞形態科学(解剖学)	1,539,000 円	補委 (独)科学技術振興機構
23	幹細胞をターゲットとする前立腺癌における炎症の関与	杉江 茂幸	腫瘍病理学(病理学I)	1,200,000 円	補委 文部科学省
24	モデル動物を用いた肥満の口腔癌がんへの関与に関する研究	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学I)	1,000,000 円	補委 文部科学省
25	海洋性カテノイドの抗炎症作用をターゲットとした生活習慣病予防機能の解明	安井 由美子	腫瘍病理学(病理学I)	1,500,000 円	補委 文部科学省
26	核内受容体蛋白を分子標的とした肝臓化学予防に関する研究	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学I)	1,000,000 円	補委 文部科学省
27	個体レベルでの発がん予知と予防に関する基盤的研究	杉江 茂幸	腫瘍病理学(病理学I)	3,000,000 円	補委 厚生労働省
28	ヒトがん発生に係わる環境要因及び感受性要因に関する研究	尾山 武	腫瘍病理学(病理学I)	1,700,000 円	補委 厚生労働省
29	疾患モデル動物を用いた環境発がんの初期発生過程及び感受性要因の解明とその臨床応用に関する研究	杉江 茂幸	腫瘍病理学(病理学I)	3,000,000 円	補委 厚生労働省
30	がん化学予防剤の開発に関する基礎及び臨床研究	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学I)	3,000,000 円	補委 厚生労働省
31	食品中の複数の化学物質による健康影響に関する調査研究	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学I)	4,500,000 円	補委 厚生労働省
32	肺腺癌微小乳頭状成分の高侵襲性に関わる遺伝子パスウェイの検索とその応用	島崎 都	病理病態学(病理学II)	1,700,000 円	補委 文部科学省
33	骨軟部腫瘍におけるATBF1遺伝子解析による悪性度評価の研究	野島 孝之	病態診断医学(臨床病理学)	2,600,000 円	補委 文部科学省
34	悪性中皮腫における癌抑制遺伝子異常ーATBF1遺伝子解析を中心にー	湊 宏	病態診断医学(臨床病理学)	1,100,000 円	補委 文部科学省
35	胃癌再発抑制の新しい戦略ー治療手術後潜在再発に対する抗癌剤効果予測ー	小坂 健夫	消化器外科治療学(消化器外科)	800,000 円	補委 文部科学省
36	酸化ストレスの観点からステロイド誘発骨壊死の機序解明と予防法の開発	市堰 徹	運動機能病態学(整形外科)	1,600,000 円	補委 文部科学省
37	特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	松本 忠美	運動機能病態学(整形外科)	1,200,000 円	補委 文部科学省
38	脳磁図、近赤外線分光法を用いた刺激時の脳活動の計測	三輪 高喜	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	900,000 円	補委 文部科学省
39	嗅神経経路の輸送を利用した他覚的嗅覚検査の開発	志賀 英明	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	1,000,000 円	補委 文部科学省
40	マネキン型紫外線測定器による眼部紫外線被曝の測定と眼部UVインデックスの提唱	佐々木 洋	感覚機能病態学(眼科学)	2,500,000 円	補委 文部科学省
41	熱帯地域における紫外線による眼疾患の実態調査と小児期眼部被曝の影響の解明に関する研究	佐々木 洋	感覚機能病態学(眼科学)	3,200,000 円	補委 厚生労働省
42	ポストホリオン症候群と耳鼻咽喉科・歯科的疾患との関連性についての研究	青木 秀哲	顎口腔機能病態学(口腔科学)	1,494,000 円	補委 文部科学省
43	変形性頸関節症の発症機序と病態の解明:破骨細胞に対する性ホルモンの影響	金山 景錫	顎口腔機能病態学(口腔科学)	1,100,000 円	補委 文部科学省
44	Y-90標識抗CD20抗体治療におけるリンパ球の放射性組織障害に関する検討	渡邊 直人	放射線診断治療学(放射線医学)	700,000 円	補委 文部科学省

45	温熱療法分子盤の解明ー熱ショック誘導性新規蛋白質の解析を通して	中島 日出夫	腫瘍内科学(腫瘍治療学)	1,400,000	円	✓	補委	文部科学省
46	GSK3βのがん促進機能の分子機構解明とその阻害に基づく消化器がん治療法の開発	島崎 猛夫	腫瘍内科学(腫瘍治療学)	200,000	円	✓	補委	文部科学省
47	マウスES細胞由来心筋細胞の分化成熟過程における分岐構造の非線形力学的解析	倉田 康孝	生理機能制御学(生理学)	900,000	円	✓	補委	文部科学省
48	アノフィキシーショックにおける心機能の統合的研究	芝本 利重	生理機能制御学(生理学)	500,000	円	✓	補委	文部科学省
49	反復経頭蓋磁気刺激によるアルツハイマー病治療のための基礎研究	加藤 伸郎	生理機能制御学(生理学)	700,000	円	✓	補委	(財)磁気健康科学研究振興財団
50	Gene33/RALTは心筋の酸化ストレス障害に対する抑制因子か?	竹田 健史	循環制御学(循環器内科学)	1,300,000	円	✓	補委	文部科学省
51	新規心筋虚血マーカーである血清アミロシホ核酸分解酵素Iによる不安定狭心症診断	河合 康幸	循環制御学(循環器内科学)	1,000,000	円	✓	補委	文部科学省
52	スベックルトラッキング法およびPET/SPECTによる心臓再同期療法の有効性の検討	粕野 健一	循環制御学(循環器内科学)	2,000,000	円	✓	補委	(財)福田記念医療技術振興財団
53	マイクロドーズ臨床試験を活用した革新的創薬技術の開発	梶波 康二	循環制御学(循環器内科学)	3,180,000	円	✓	補委	(社)医薬品開発支援機構
54	極限高地生息動物の肺循環特性-Rhoキナーゼを中心とした分子生物学的研究ー	梅 博久	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	100,000	円	✓	補委	文部科学省
55	MR拡散協調と水分子輸送関連遺伝子解析による肺癌悪性度の研究	薄田 勝男	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	2,200,000	円	✓	補委	文部科学省
56	肺傷害におけるβ受容体機能再生メカニズムの研究	佐久間 勉	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	1,000,000	円	✓	補委	文部科学省
57	仮想・極細気管支鏡とPET-CTを用いた肺野微小肺癌の悪性度解析と個別治療の確立	佐川 元保	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	500,000	円	✓	補委	文部科学省
58	がん検診の評価とあり方に関する研究	佐川 元保	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	5,000,000	円	✓	補委	厚生労働省
59	標準的検診法と精度管理や医療経済的効果に関する研究	佐川 元保	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	1,000,000	円	✓	補委	厚生労働省
60	肺癌の悪性度および治療効果判定におけるMR拡散強調画像と水分子輸送関連遺伝子の解析	薄田 勝男	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	1,000,000	円	✓	補委	(財)北國がん研究振興財団研究助成金
61	遠位型ミオパチーの実態調査	田中 恵子	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	1,500,000	円	✓	補委	厚生労働省
62	免疫性神経疾患に関する調査研究	松井 真	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	1,400,000	円	✓	補委	厚生労働省
63	急性脳炎・脳症のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明・早期診断・治療法確立に関する臨床研究	田中 恵子	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	1,100,000	円	✓	補委	厚生労働省
64	進行性腎疾患モデルにおける機能分子に関するプロテオーム解析	横山 仁	腎機能治療学(腎臓内科学)	1,000,000	円	✓	補委	文部科学省
65	進行性腎障害に関する調査研究	横山 仁	腎機能治療学(腎臓内科学)	8,500,000	円	✓	補委	厚生労働省
66	トロンピン受容体阻害による尿路結石症発生抑制	鈴木 孝治	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	800,000	円	✓	補委	文部科学省
67	糖尿病腎症に対するミトコンドリア制御に基づいた新規治療法の探索	古家 大祐	内分泌代謝制御学(内分泌内科)	1,900,000	円	✓	補委	文部科学省
68	第8回日本韓国糖尿病腎症セミナー	古家 大祐	内分泌代謝制御学(内分泌内科)	1,191,000	円	✓	補委	(独)日本学術振興会
69	ミトコンドリアターンオーバー制御による抗老化対策	古家 大祐	内分泌代謝制御学(内分泌内科)	5,000,000	円	✓	補委	(財)上原記念生命科学財団
70	糖尿病性腎症の病態解明と新規治療法開発のための評価法の開発	古家 大祐	内分泌代謝制御学(内分泌内科)	300,000	円	✓	補委	厚生労働省
71	全身性自己免疫疾患における肥満因子レプチンに関する研究	藤田 義正	血液免疫制御学(血液免疫内科)	1,000,000	円	✓	補委	文部科学省
72	スフィンゴ脂質を分子標的としたがん治療法の開発	梅原 久範	血液免疫制御学(血液免疫内科)	4,000,000	円	✓	補委	(財)車両競技公益資金記念財団
73	新規疾患,IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究	梅原 久範	血液免疫制御学(血液免疫内科)	9,800,000	円	✓	補委	厚生労働省
74	新規疾患,IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究	正木 康史	血液免疫制御学(血液免疫内科)	1,000,000	円	✓	補委	厚生労働省
75	IgG4関連全身疾患の病態解明と疾患概念確立のための臨床研究	梅原 久範	血液免疫制御学(血液免疫内科)	1,200,000	円	✓	補委	厚生労働省
76	C型インフルエンザウイルスの増殖過程における第二の膜蛋白質CM2の役割の解明	村木 靖	生体感染防御学(微生物学・医動)	1,194,000	円	✓	補委	文部科学省
77	環東シ海に収斂される媒介動物の分布特性に基づく新興再興感染症拡散経路の確定	及川 陽三郎	生体感染防御学(微生物学・医動)	200,000	円	✓	補委	文部科学省
78	免疫性神経疾患に関する調査研究	大原 義朗	生体感染防御学(微生物学・医動)	1,400,000	円	✓	補委	厚生労働省
79	社会経済状態とabsenteeism・presenteeism	石崎 昌夫	社会環境保健医学(衛生学)	300,000	円	✓	補委	文部科学省
80	日本人の食事におけるグリセックインデックスと糖尿病発症に関する疫学研究	櫻井 勝	健康増進予防医学(公衆衛生学)	1,200,000	円	✓	補委	文部科学省
81	各種栄養素摂取の長期変化と生活習慣病発症に関する大規模疫学研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	2,400,000	円	✓	補委	文部科学省
82	GISを用いたベトナムでのダイオキシン類による環境汚染と健康影響に関する疫学研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	1,000,000	円	✓	補委	文部科学省
83	カシム汚染地域における生命予後等に関する疫学研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	3,000,000	円	✓	補委	(株)東レリサーチセンター
84	食生活・栄養素摂取状況が高齢者の健康寿命に与える影響に関する研究:NIPPON DATA80・90の追跡調査	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	250,000	円	✓	補委	厚生労働省
85	特定疾患の疫学に関する研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	1,500,000	円	✓	補委	厚生労働省
86	大規模コホート共同研究による生活習慣病発症予防データベース構築とその高度利用に関する研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	2,200,000	円	✓	補委	厚生労働省
87	保健指導への活用を前提としたメタボリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出のための横断・縦断研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	2,400,000	円	✓	補委	厚生労働省
88	覚醒剤濫用の法医病理学的診断を目指した薬物依存モデル動物による酸化ストレスの解析	北村 修	法医学	7,200,000	円	✓	補委	文部科学省
89	認知症・運動器疾患等の老年病罹患状況及び高齢者の心身状況把握のための長期疫学的調査研究	森本 茂人	高齢医学(老年病学)	4,000,000	円	✓	補委	厚生労働省

90	降圧治療および抗凝固療法法の個人の特性に応じたテーラーメイド治療確立に関する研究	森本 茂人	高齢医学(老年病学)	500,000	円	✓	補委	厚生労働省
91	システム生物学にもとづく白血病幹細胞モデルの構築と予測型治療戦略への基盤創成	犀川 太	発生発達医学(小児科学)	700,000	円	✓	補委	文部科学省
92	甲状腺ホルモン欠乏による胎生期脳障害の病態解明に関する研究	伊藤 順康	発生発達医学(小児科学)	800,000	円	✓	補委	文部科学省
93	機能的脳画像解析による強迫性障害への認知行動療法の有効性に関する研究	小泉 葉月	精神神経科学(神経精神医学)	1,300,000	円	✓	補委	文部科学省
94	健康成人におけるFunctional MRIを用いた言語野の脳内賦活部位に関する研究	小関 陽樹	精神神経科学(神経精神医学)	500,000	円	✓	補委	(公)松原三郎記念精神医学育成基金
95	慢性疲労症候群の漢方治療における中枢神経系の再生機構	守屋 純二	総合内科学(総合診療科)	900,000	円	✓	補委	文部科学省
96	神経-血管相互作用による血管ネットワーク形成に関わる遺伝子群の探索と病理機能	米倉 秀人	ゲノム医科学(生化学)	900,000	円	✓	補委	文部科学省
97	増殖性網膜炎の新規治療法の開発—miRNAを標的とした血管新生抑制	吉竹 佳の	ゲノム医科学(生化学)	500,000	円	✓	補委	文部科学省
98	モノヒンキニン53BP1による非同末端結合修復制御機構の解明	岩淵 邦芳	ゲノム医科学(生化学)	1,200,000	円	✓	補委	文部科学省
99	神経細胞傷害と細胞ストレスに着目した覚醒剤少量投与による実験動物モデルの解析	武市 敏明	法医学	1,600,000	円	✓	補委	文部科学省
100	脳-心臓軸による心筋再生と治療;心筋内アディポネクチン発現誘導との関連	神田 享勉	地域医療学	2,400,000	円	✓	補委	文部科学省
101	幼児の午睡と生体リズムとの関連—単相睡眠への移行までの追跡調査—	津田 朗子	看護学部	800,000	円	✓	補委	文部科学省
102	2型糖尿病患者の運動療法のとらえ方からみた運動療法看護教育プログラムの開発	山崎 松美	看護学部	1,200,000	円	✓	補委	文部科学省
103	産業界における「バーニア」予防のための介入研究	北岡 和代	看護学部	600,000	円	✓	補委	文部科学省
104	眼鏡、サングラスを介して背後から眼内に侵入する紫外線の経路とその防御法	小島 正美	看護学部	700,000	円	✓	補委	文部科学省
105	「訪問看護師を対象とした感染管理教育プログラム」の実証と再構築に関する研究	前田 修子	看護学部	900,000	円	✓	補委	文部科学省
106	医療・衛生材料確保に関する退院支援マニュアルの開発	前田 修子	看護学部	1,336,000	円	✓	補委	(財)在宅医療助成勇美記念財団
107	職業性ストレス低減のための看護ケアプログラムの開発とその評価	長井 麻希江	看護学部	1,000,000	円	✓	補委	文部科学省
108	地域高齢者の介護予防事業への参加状況と生活機能の変化に関する追跡調査	浜崎 優子	看護学部	1,200,000	円	✓	補委	文部科学省
109	認知症患者の介護が介護者の睡眠パターンと循環機能に及ぼす影響と健康支援の開発	桜井 志保美	看護学部	250,000	円	✓	補委	文部科学省
110	訪問看護師対象の「在宅ターミナルケア」に関する教育プログラム開発	前田 修子	看護学部	150,000	円	✓	補委	文部科学省
111	各種栄養素摂取の長期変化と生活習慣病発症に関する大規模疫学研究	森河 裕子	看護学部	100,000	円	✓	補委	文部科学省
112	対人援助職の離職を防ぐための「バーニア」の予防と回復に関する研究	北岡 和代	看護学部	100,000	円	✓	補委	文部科学省
113	対人援助職のワーク・ライフ・バランスへの取り組みと「バーニア」予防に関する研究	北岡 和代	看護学部	200,000	円	✓	補委	文部科学省

223,224,000

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Microvascular Research	Hepatic microvascular pressure during anaphylactic shock in anesthetized rats.	芝本利重	生理学II
2	Journal of Cardiovascular Pharmacology	Mouse hepatic portal vasoconstrictive response to vasoconstrictors is much weaker than that in rat.	芝本利重	生理学II
3	J. Virol (2009.7)	Different subcellular localization of Theiler's murine encephalomyelitis virus leader proteins of GDVII and DA strains in BHK-21 cells	N.Taniura	微生物学
4	Retrovirology (2009.6)	In vivo expression of the HBZ gene of HTLV-1 correlates with proviral load, inflammatory markers and disease severity in HTLV-1 associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP)	M.Saito	微生物学
5	Virus Res. (2010.2)	Leader(L) of Theiler's murine encephalomyelitis virus (TMEV) is required for virus growth in a murine macrophage-like cell line	K.Ichinose-Asakura	微生物学
6	Bio Clinica (2009.8)	感染症と自己免疫性神経疾患:診断と治療 update	大原義朗	微生物学
7	日本内科学会雑誌 (2010.3)	最近話題のウイルス感染症	大原義朗	微生物学
8	J.Hypertens., 27:357-364, 2009.	Stroke risk and antihypertensive drug treatment in the general population:the Japan arteriosclerosis longitudinal study	H.Nakagawa	公衆衛生学
9	Atherosclerosis, 206:282-286, 2009.	Relation of long-term body weight change to change in lipoprotein particle size in Japanese men and women:The INTERMAP Toyama study	M.Sakurai	公衆衛生学
10	Heart, 95:909-916, 2009.	Does cigarette smoking exacerbate the effect of total cholesterol and high-density lipoprotein cholesterol on the risk of cardiovascular diseases?	K.Nakamura	公衆衛生学
11	Circulation, 119:1892-1898, 2009.	Four blood pressure indexes and the risk of stroke and myocardial infarction in Japanese men and women: a meta-analysis of 16 cohort studies	H.Nakagawa	公衆衛生学
12	J. Occup. Health, 51:123-131, 2009.	Burnout and risk factors for arteriosclerotic disease: follow-up study	Y.Morikawa	公衆衛生学
13	Metab. Clin. Exp., 58:456-459, 2009.	Middle-aged Japanese women are resistant to obesity-related metabolic abnormalities	M.Sakurai	公衆衛生学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
14	J. Nurs. Manag., 17:359-365, 2009.	Relationship between stress coping and burnout in Japanese hospital nurses	Y.Morikawa	公衆衛生学
15	Diabet. Med., 26:753-759, 2009.	J-shaped relationship between waist circumference and subsequent risk for Type 2 diabetes:an 8-year follow-up of relatively lean Japanese individuals.	M.Sakurai	公衆衛生学
16	Environ. Health Prevent. Med., 14:88-95, 2009.	Effects of maternal dioxin exposure on newborn size at birth among Japanese mother-infant pairs	M.Nishijo	公衆衛生学
17	Biol Trace Elem Res, 129:261-269, 2009.	Serial follow-up study on renal handling of calcium and phosphorus after soil replacement in Cd-polluted rice paddies estimated using a general linear mixed	M.Nishijo	公衆衛生学
18	Life Sci. (2010年1月)	Amlodipine, a Ca ²⁺ channel blocker, suppresses phosphorylation of epidermal growth factor receptor in human epidermoid carcinoma A431 cells	吉田純子	薬理学
19	J.Hypertens., 27:357-364, 2009.	Stroke risk and antihypertensive drug treatment in the general population:the Japan arteriosclerosis longitudinal study	中川秀昭	総医研共同利用部門
20	Atherosclerosis, 206:282-286, 2009.	Relation of long-term body weight change to change in lipoprotein particle size in Japanese men and women:The INTERMAP Toyama study	中川秀昭	総医研共同利用部門
21	Circulation, 119:1892-1898, 2009.	Four blood pressure indexes and the risk of stroke and myocardial infarction in Japanese men and women; a meta-analysis of 16 cohort studies	中川秀昭	総医研共同利用部門
22	Biomarkers.,14:77-81, 2009	Biological half-life of cadmium in the urine of inhabitants after cessation of cadmium exposure	西条旨子	総医研共同利用部門
23	Metab. Clin. Exp., 58:456-459, 2009.	Middle-aged Japanese women are resistant to obesity-related metabolic abnormalities	中川秀昭	総医研共同利用部門
24	Biol Trace Elem Res, 129:261-269, 2009.	Serial follow-up study on renal handling of calcium and phosphorus after soil replacement in Cd-polluted rice paddies estimated using a general linear mixed	西条旨子	総医研共同利用部門
25	J.Health Sci., 55:373-379, 2009.	Isolation of N-acetylneuraminic acid and N-glycolylneuraminic acid from Pleurocybella porrigens.	石垣靖人	総医研共同利用部門
26	Neurosci. Lett., 455:14-16, 2009	Ventromedial hypothalamic lesions change the expression of neuron-related genes and immune-related genes in rat liver.	石垣靖人	総医研共同利用部門
27	Exp. Biol. Med. (Maywood), 234:758-763, 2009	Gene Expression Profiling in Rat Liver After VMH Lesioning.	石垣靖人	総医研共同利用部門
28	Anticancer Agents Med. Chem., 9:1114-1122, 2009	An emerging strategy for cancer treatment targeting aberrant glycogen synthase kinase 3beta.	石垣靖人	総医研共同利用部門
29	Rapid communications in mass spectrometry (2009年10月)	Urinary metabolic profile of phenylketonuria in patients receiving total parenteral nutrition and medication	久原とみ子	人類遺伝学研究部門

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
30	ぶんせき (2009年7月)	メタボロミクスとメタボノミクス	久原とみ子	人類遺伝学研究部門
31	American journal of kidney diseases (2009年6月)	Worsening kidney function with a history of urolithiasis	久原とみ子	人類遺伝学研究部門
32	Legal Medicine	Serum deoxyribonuclease I can be used as a useful marker for diagnosis of death due to ischemic heart disease	河合康幸	循環器内科学
33	Clinica Chimica Acta 2009.5	Development of a sensitive enzyme-linked immunosorbent assay for measurement of Dnase I in human serum	河合康幸	循環器内科学
34	Journal of Cardiology 2009.10	activity on admission in patients with acute myocardial infarction can be useful in predicting left ventricular enlargement due to remodeling	河合康幸	循環器内科学
35	日本心臓病学会誌 2009.10	循環器外来におけるアトルバスタチン10mg /日投与によるLDL-コレステロール治療目 標値達成率の検討	赤尾浩慶	循環器内科学
36	日本老年医学会雑誌 2009.11	尿路感染による食欲低下に伴い急激なPT- INRの延長を認めた後期高齢者慢性心房細 動の一例	斉藤竜平	循環器内科学
37	日本心血管インターベ ンション治療学会誌 2010.3	末梢血管の治療に対するChromaFlo(クロ マ)の役割	北山道彦	循環器内科学
38	分子呼吸器病	Rab38欠損肺胞II型上皮細胞における肺 サーファクタント・ホスファチジルコリンの分 泌活性	小林 誠	呼吸器内科学
39	金医大誌	Negative expiratory pressure(NEP)法による 睡眠時無呼吸患者の覚醒時上気道機能の 評価	齋藤雅俊	呼吸器内科学
40	金医大誌	Rab38低分子量Gタンパク質遺伝子異常に よる肺胞II型上皮細胞の変化	小林 誠	呼吸器内科学
41	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol	Altered lung surfactant system in a Rab38- deficient rat model of Hermansky-Pudlak syndrome	長内和弘	呼吸器内科学
42	Anticancer Res.	Effect of promoter methylation of multidrug resistance 1(MDR1)gene in gastric carcinogenesis	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
43	Clin. Exp. Med.	Promoter methylation of protease-activated receptor (PAR2) is associated with severe clinical phenotypes of ulcerative colitis (UC)	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
44	Anticancer Res.	Effect of polymorphisms in the 3'-untranslated region(3'-UTR) of VEGF gene on gastric pre-malignant condition	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
45	Hepatogastroenterology	COMT gene Val158Met polymorphism influences the severity of interstitial metaplasia in H.Pylori infected older subjects	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
46	Gastroenterological Endoscopy	Gastric mucosal pattern by using magnifying narrow-band imaging endoscopy clearly distinguishes histological and serological severity of chronic gastritis	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
47	Int. J. Mol. Med.	Effect of MDR1 gene promoter methylation in patients with ulcerative colitis	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
48	Dig. Dis. Sci.	CD14 promoter-159 polymorphism is associated with reduced risk of intestinal-type gastric cancer in a Japanese population	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
49	Cancer Sci.	Chronic nonsteroidal anti-inflammatory drug(NSAID) use suppresses multiple CpG islands hyper methylation(CIHM) of tumor suppressor genes in the human gastric mucosa	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
50	Hum. Immunol.	Genetic polymorphism of interleukin-17A and-17F genes in gastric carcinogenesis	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
51	Mol. Carcinog.	Effect of polymorphisms in the 3' untranslated region (3'-UTR) of vascular endothelial growth factor gene on gastric cancer and peptic ulcer diseases in Japan	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
52	Hepatogastroenterology	Association between cyclin D1 (CCND1) polymorphism and gastric cancer risk in Japanese population	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
53	Eur. J. Gastroenterol. Hepatol.	Increased number of methylated CpG islands correlates with Helicobacter pylori infection, histological and serological severity of chronic gastritis	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
54	Eur. J. Gastroenterol. Hepatol.	Mannan-binding lectin B allele is associated with a risk of developing more severe gastric mucosal atrophy in Helicobacter pylori-infected Japanese patients	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
55	Anticancer Res.	The BB genotype of heat-shock protein (HSP)70-2 gene is associated with gastric pre-malignant condition in H. pylori-infected older patients	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
56	Dig. Dis. Sci.	MTHFR 677T carrier influences the methylation status of H. pylori-infected gastric mucosa in older subjects	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
57	J. Clin. Biochem. Nutr.	The role of RANTES promoter polymorphism in functional dyspepsia	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
58	Anticancer Res.	RANTES promoter genotype and gastric cancer risk in a Japanese population	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
59	Int. J. Mol. Med.	Effect of polymorphisms of IL-17A,-17F and MIF genes on CpG island hypermethylation (CIHM) in the human gastric mucosa	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
60	Eur. J. Gastroenterol. Hepatol.	A genetic variant of the p22PHOX component of NADPH oxidase G242T is associated with reduced risk of functional dyspepsia in Helicobacter pylori-infected Japanese individuals	Tomiyasu Arisawa	消化器内科学
61	J. Cardiovasc. Pharmacol.	Mouse hepatic portal vasoconstrictive response to vasoconstrictors is much weaker than that in rat	Mikihiro Tsutsumi	消化器内科学
62	消化器科	パニロイド受容体(transient receptor potenoat vanilloid type 1:TRPV1)315CC多望はFD発症に抑制的に働く	有沢富康	消化器内科学
63	Intern.Med.	Nationwide survey of acute juvenile female non-herpetic encephalitis injapan:Relationship to anti-N-methy-d-aspartate receptor encephalitis	M.Matsui	神経内科学
64	J.Neurol.Sci.	Heterogeneity and continuum of multiple sclerosis phenotypes in japanese according to the results of the fourth nationwide survey	M.Matsui	神経内科学
65	Mult.Scler.	Temporal changes and geographical differences in multiple sclerosis phenotypes in japanese;nationwide survey results over 30 years.	M.Matsui	神経内科学
66	Neuroreport.	Astrocytic necrosis is induced by anti-aquaporin4 antibody-positive serum.	K.Tanaka	神経内科学
67	J.Neuroimmunol.	Identification of binding sites for anti-aquaporin4 antibodies in patients with neuromyelitis optica.	K.Tanaka	神経内科学
68	Eur.Neurol.	Interferon-β 1b Treatment in Neuromyelitis Optica.	K.Tanaka	神経内科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
69	Neurology	Pathologic and immunologic profiles of a limited form of neuromyelitis optica with myelitis.	K.Tanaka	神経内科学
70	J Neuroimmunol.	CD8 positive T-cell infiltration in the dentate nucleus of paraneoplastic cerebellar degeneration.	K.Tanaka	神経内科学
71	Acta Ophthalmol.	Anti-aquaporin-4 antibody-positive optic neuritis.	K.Tanaka	神経内科学
72	Mult.Scler.	Relationship between Barkhof criteria and the clinical features of multiple sclerosis in northern Japan.	K.Tanaka	神経内科学
73	神経内科	光干渉断層計(optical coherence tomography)の多発性硬化症への応用	田中恵子	神経内科学
74	金医大誌	末梢血および髄液パラメータによるウイルス性中枢神経感染症の病態解析	中多充世	神経内科学
75	臨神経	Neuromyelitis opticaへのRituximab治療への試み	田中恵子	神経内科学
76	Pediatr Blood Cancer (2009.7)	Outcome of Recurrent or Refractory Acute Lymphoblastic Leukemia in Infants With MLL Gene Rearrangements; A Report From the Japan Infant Leukemia Study Group	Y.Saikawa	小児科学
77	Progress in Medicine (2009.7)	川崎病急性期におけるアレルギーの関与	林陽子	小児科学
78	小児科臨床 (2009.10)	熱型表からみる小児インフルエンザウイルス感染症に対する麻黄湯の有効性の検討	鬼頭俊行	小児科学
79	北陸公衆衛生学会誌 (2009.10)	低身長を主訴として金沢医科大学小児科内分泌代謝外来を受診した新患と石川県内の集団健診における低身長の意義	伊藤順庸	小児科学
80	日小児アレルギー学会誌 (2009.12)	病院普通食における食物アレルギーへの配慮(社)日本アレルギー学会認定教育施設でのアンケート調査の結果(原著論文/抄録あり)	中村利美	小児科学
81	金沢医科大学雑誌 (2009.12)	B-type natriuretic peptide as a marker of latent left ventricular impairment in pediatric patients with bronchial asthma	C.Kitaoka	小児科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
82	Journal of Pediatric Hematology Oncology (2010.1)	Dense Methylation of Types 1 and 2 Regulatory Regions of the CD10 Gene Promoter in Infant Acute Lymphoblastic Leukemia With MLL/AF4 Fusion Gene	Y.Saikawa	小児科学
83	American Journal of Roentgenology	Depiction of hypervascular hepatocellular carcinoma with 64-MDCT: comparison of moderate- and high-concentration contrast material with and without saline flush	の場宗孝	放射線科
84	Lung Cancer 2009.04	Four years experience of the survey on quality control of lung cancer screening system in japan	佐川元保	呼吸器外科学
85	Respirology 2009.04	Endogenous catecholamine stimulates alveolar fluid clearance in rats with acute pancreatitis	J.Xu	呼吸器外科学
86	Chest 2009.08	Results of long-term follow-up of photodynamic therapy for roentgenographically occult bronchogenic squamous cell carcinoma	相川広一	呼吸器外科学
87	Eur. J. Nucl. Med. Mol. Imaging 2009.05	Combined evaluation of preoperative FDG uptake on PET, ground-glass opacity area on CT, and serum CEA level: identification of both low and high risk of recurrence in patients with resected T1 lung	佐久間勉	呼吸器外科学
88	Am J Ophthalmol (2009.2)	Pseudoexfoliation in the reykjavik eye study: five-year incidence and changes in related ophthalmologic variables	H.Sasaki	眼科学
89	Health Phys (2009.3)	Acute ocular injuries caused by 60-GHz millimeter-wave exposure	M.Kojima	眼科学
90	Ann Rheum Dis (2009.4)	Proposal for a new clinical entity, IgG4-positive multiorgan lymphoproliferative syndrome: analysis of 64 cases of IgG4-related disorders	K.Kitagawa	眼科学
91	Cornea (2009.4)	What Is This Thing Called "Amyloidosis"	KA.Sasaki	眼科学
92	Journal of Ocular Pharmacology and therapeutics (2009.4)	Measurement of AQCmax of five different ophthalmic solutions and discussion of its new application	M.Fukuda	眼科学
93	Jpn J Ophthalmol (2009.4)	Effect of 5-S-GAD on UV-B-Induced Cataract in Rats	H.Sasaki	眼科学
94	IOL&RS (2009.4)	白内障から疑う全身疾患	佐々木洋	眼科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
95	IOL&RS (2009.4)	抗菌点眼薬の薬物動態(PK)/抗菌力(PD)－AQCmaxと新たな指標－	福田正道	眼科学
96	あたらしい眼科 (2009.4)	多発性小円形病巣を呈する特異な角膜炎－能登角膜炎と銭型角膜炎－	北川和子	眼科学
97	日本の眼科 (2009.4)	眼と紫外線	佐々木洋	眼科学
98	あたらしい眼科 (2009.7)	オフロキサシン点眼薬とマレイン酸チモロール点眼薬の培養角膜細胞に対する影響と家兎眼内移行動態	福田正道	眼科学
99	あたらしい眼科 (2009.10)	小児に発症したMRSAによる急性化膿性涙腺炎	稲垣伸亮	眼科学
100	Am J Ophthalmol (2010.2)	A Simplified Quantitative Method for Assessing Keratoconjunctivitis Sicca From the Sjogren's Syndrome International Registry	K.Kitagawa	眼科学
101	IEEE Transactions on Biomedical Engineering (2010.5)	Acute Dosimetry and Estimation of Threshold-Inducing Behavioral Signs of Thermal Stress in Rabbits at 2.45-GHz Microwave Exposure	H.Sasaki	眼科学
102	J Cataract Refract Surg (2010.6)	Higher-order ocular aberrations caused by crystalline lens waterclefs	H.Sasaki	眼科学
103	あたらしい眼科 増刊号 (2010.1)	細菌性角膜炎の治療のポイントは？	北川和子	眼科学
104	日本白内障学会誌 (2010.3)	遮光と視機能－透明遮光眼鏡への挑戦－	坂本保夫	眼科学
105	日本白内障学会誌 (2010.3)	基礎研究を活用した白内障診療	佐々木洋	眼科学
106	Jpn. J. Med. Mycol 2009年	Successful Mating of a Human Isolate of <i>Arthroderma simii</i> with a Tester Strain of <i>A. vanbreuseghemii</i>	M. Kawasaki	皮膚科学
107	皮膚の科学 2009年2月	胃瘻内容の漏出に伴う皮膚障害を認めた6例の検討	竹田公信	皮膚科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
108	日本臨床救急医学会雑誌	化膿性膝関節炎を感染巣とし劇症型A群β溶連菌感染症と呈した1例	水沼 真理子	救急医学
109	Diabetes Res. Clin. Pract.	Comparison of waist circumference with body mass index for predicting abdominal adipose tissue.	M. Sakurai	健康管理センター
110	J. Hypertens.	Stroke risk and antihypertensive drug treatment in the general population:the Japan arteriosclerosis longitudinal study,	H. Nakagawa	健康管理センター
111	Heart	Does cigarette smoking exacerbate the effect of total cholesterol and high-density lipoprotein cholesterol on the risk of cardiovascular diseases?,	K. Nakamura	健康管理センター
112	Diabet. Med.	J-shaped relationship between waist circumference and subsequent risk for Type 2 diabetes:an 8-year follow-up of relatively lean Japanese individuals.,	M. Sakurai	健康管理センター
113	J. Diabetes	Smoking, diabetes and cardiovascular diseases in men in the Asia-Pacific region,	K. Nakamura	健康管理センター
114	BMC Public Health	Impact of cigarette smoking on the relationship between body mass index and coronary heart disease: a pooled analysis of 3264 stroke and 2706 CHD events in 378579 individuals in the Asia Pacific	K. Nakamura	健康管理センター
115	北陸公衛会誌	地域における生後1か月の子どもを持つ母親の産後うつ病とその関連要因の分析—母子保健事業から得られる母親の背景因子との関連—,	中村幸志	健康管理センター
116	金医大誌	アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬の肥満マウスにおけるウイルス性心筋炎でのT細胞免疫変化—Th1,Th2サイトカインの意義—,	日下一也	健康管理センター
117	日循環器予防誌	中年期日本人男性における腹部肥満の有無別に見た代謝異常集積と脳心血管疾患発症との関連,	櫻井 勝	健康管理センター
118	日内会誌	高IgE血症,多発性肺嚢胞など多彩な所見を呈したプロリダーゼ欠損症の1例	福村 敦	健康管理センター
119	日消誌	血小板増多症をともなったIL-6産生性腹膜中皮腫の1例	福山智基	健康管理センター
120	Diabetologia (2009.10)	Long-term effect of modification of dietary protein intake of progression of diabetic nephropathy:a randomised controlled trial.	D.koya	糖尿病・内分泌内科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
121	Diabetes Res Clin Pract(2009.8)	Carotid atherosclerosis mediated by visceral adiposity and adipocytokines in type2 diabetic subjects.	K.Konishi	糖尿病・内分泌内科学
122	Wound Rep Reg,17:598-605,2009.	放射線治療を受けるがんサバイバーへの看護ケア	我妻 孝則	看護部

計 122件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 川上 重彦
管理担当者氏名	病院事務部事務長 古居 滋

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書		病院管理課 薬剤部 看護部 中央放射線部 医療情報部 医事課	【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号(7桁)を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者を明らかにする帳簿	病院職員課	
	高度医療の提供の実績	医事課	
	高度医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度医療の研修の実績	病院職員課	
	閲覧実績	病院管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携事務課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院管理課、薬剤部	
	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全部(医療安全管理部門)	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全部(医療安全管理部門)	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全部(医療安全管理部門)	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全部(医療安全管理部門)	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全部(医療安全管理部門)	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全部(感染制御部門)	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全部(医療安全管理部門)	
当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全部(医療安全管理部門)		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11第1項各号及び第9条の2第3第1項第1号に掲げる体制の確保状況		
	院内感染のための指針の策定状況	医療安全部(感染制御部門)	
	院内感染のための委員会の開催状況	医療安全部(感染制御部門)	
	従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	医療安全部(感染制御部門)	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全部(感染制御部門)	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
	従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME部	
	従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部事務長 古居 滋(管理・運営)、医療情報部長 堀 有行(診療録)
閲覧担当者氏名	病院管理課長 上端 雅則(管理・運営)、情報管理課 山下 和夫(診療録)
閲覧の求めに応じる場所	カルテ閲覧室・病院管理課事務室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	54.4%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	8,767人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,198人	
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	752人	
	D : 初診の患者の数	24,393人	

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <p>医療事故防止に関する安全管理体制の指針(以下「指針」という。)は、医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの3部構成をとっている。</p> <p>指針は、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、患者暴力行為への対応、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。H21指針改訂では、改組による部門名の変更(医療安全対策部→医療安全部)、用語の定義(インフォームド・コンセント)の追加、医療問題検討委員会(新設)の追加、現場保存項目の追加、カルテ記載に係る留意事項の追加について収載した。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 24 回
<p>・活動の主な内容</p> <p>*医療安全対策小委員会:月1回開催(第3水曜日)</p> <p>医療安全対策小委員会は、内科系・外科系・小児科医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員の18名で構成され、医療安全管理者及び事務局から提出された当該部署に特有の事例を含め、各部門に共通するような代表事例について事例検討を行う。事例検討では、インシデントに至る状況、要因、影響、改善等について、医師・看護師等それぞれの職種のみで見た意見を出し合い、小委員会としても徹底的に分析・検討し、医療事故防止対策を検討する。また、その結果は医療安全対策委員会に検討事例、改善策として報告・提案するとともに、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。</p> <p>*医療安全対策委員会:月1回開催(第4火曜日)</p> <p>医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門リスクマネージャー(病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職)70名で構成されている。インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果、改善策をそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。さらに、診療科、病棟、薬剤部、ME部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、それぞれの職種の立場を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を定期的に行っており、その内容について2グループずつ代表者が報告する。他に指針・マニュアルの改正、医療安全院内ラウンド、全体職員・リスクマネージャー研修会、医療安全アンケート、その他医療安全に係る事項についての審議・結果報告を行う。</p> <p>委員会の議事録及び資料は、各委員及び全リスクマネージャーに配付し、所属職員全員に周知するよう回覧を行い、読んだ者はサインするようにしている。他に、電子カルテ上とイントラネット「病院職員のページ」にも委員会の議事録を掲載している。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 21 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>第1回 安全管理体制を確保するための職員研修会 開催日 平成21年7月24日(金) テーマ 大学病院における感染・医療安全対策 講師 一山 智 京都大学大学院医学研究科 臨床病態検査学 教授 京都大学医学部附属病院 検査部・感染制御部 部長</p> <p>第2回 安全管理体制を確保するための職員研修会 開催日 平成22年2月25日(木) テーマ なぜ医療紛争・医療訴訟が起こるのか -医療者として適切な対応とは- 講師 金田 朗 (金田法律事務所 弁護士)</p> <p>金沢医科大学病院CPC・医療安全に関する教育講演会 開催日 平成21年4月22日(水) テーマ 医療関連死を考える -医療事故防止対策と医療の質の向上を目指して- 講師 1 車谷 宏 石川県立中央病院・病理診断科部長・医療技術部部長 2 北村 修 金沢医科大学・法医学教授 3 黒田 誠 藤田保健衛生大学・病理診断科教授</p> <p>新人オリエンテーション 開催日 平成21年4月2日 テーマ 安全管理体制の指針と医療事故の防止体制について 講師 前多 一美(医療安全管理者)</p> <p>新人看護師研修会 開催日 平成21年4月6日 テーマ 安全管理体制について 講師 前多 一美(医療安全管理者)</p> <p>新人研修会 開催日 平成21年9月14・24日 テーマ 危険予知トレーニング 講師 前多 一美(医療安全管理者)、看護副部長</p>	

看護師研修会

開催日 平成21年6月4日、8日
テーマ 1、2年次看護師事例からの医療安全について
講師 前多 一美(医療安全管理者)
2、テルモ製品 安全対策体験研修
製造業者

看護師研修会

開催日 平成21年11月17日、19日
テーマ 隔壁開通・混合方法の説明及び体験会
講師 製造業者

看護師宿泊研修会

開催日 平成21年10月16日～17日
テーマ 医療安全対策と分析方法(メディカルセーフター)について
講師 前多 一美(医療安全管理者)、看護部

静脈注射手技・採血手技トレーニング

開催日 平成21年5月13・14日
講師 機器納入業者

機器の操作・取り扱い研修会

開催日 平成21年4月21日、22日
テーマ 血管穿刺専用超音波装置の操作・「エコーガイド下における血管穿刺」
講師 田中 智子(日本シャーウッド(株)バスキュラー推進室)

輸液ポンプ・シリンジポンプ適正使用研修会

開催日 平成21年5月27日
講師 機器納入業者

PCAポンプ(新規導入機器)操作・取扱い研修会

開催日 平成21年9月18日
講師 土田 英昭(麻酔科教授、機器納入業者)

人工呼吸器・除細動器取扱い研修会

開催日 平成21年7月1日、2日
講師 機器納入業者

帰局員及び中途採用者研修会

開催日 平成21年12月7日
テーマ 1.医療安全管理体制の実際
講師 前多 一美(医療安全管理者)
2.院内感染対策について
井口 晶晴(感染制御部門副部長、ICD)

研修医・看護師対象の研修会

開催日 平成21年9月9日
テーマ 医療用麻薬、抗精神薬、覚せい剤原料の取り扱いについて
講師 政氏 藤玄 薬剤部主任

研修医・看護師対象の研修会

開催日 平成21年11月11日
テーマ ハイリスク薬を中心とした注射薬の取扱いについて
講師 高橋 喜統 薬剤部主任

電気メス取り扱いセミナー

開催日 平成21年8月5日
講師 医療機器納入業者、ME部

医療機器の取扱いと深部静脈血栓予防セミナー

開催日 平成21年8月26日
講師 医療機器納入業者

院内コールシステムと一次救命救急方法

開催日 平成21年10月20日
講師 前多 一美(医療安全管理者)、CSCスタッフ

リスクマネージャー宿泊研修会

開催日 平成22年1月22日～23日
テーマ インシデント事例分析手法の具体的対策の立案について
講師 河野 龍太郎(自治医科大学 医療安全学教授 メディカルシミュレーションセンター長)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備 有 無

・その他の改善のための方策の主な内容

院内で起こった医療事故は、速やかに病院長まで報告されると共に医療問題検討委員会及び医療事故調査委員会で事故の原因調査と業務改善を伴う再発予防策が講じられ、院内全職員に周知・徹底が図られる。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(4名) <input type="checkbox"/> 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(4名) <input type="checkbox"/> 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・所属職員：専任(6)名 兼任(10)名</p> <p>・活動の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none">・医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会及び事故調査委員会、医療問題検討委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全対策委員会の庶務に関する事。・医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行う事。・患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行う事。・事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行う事。・医療安全に係る連絡調整に関する事。・診療情報提供に関する事。・医療安全相談に関する事。・その他医療安全対策の推進に関する事。(病院全職員を対象とするもの、特定の部署の職員を対象とするもの等の職員研修の計画・立案・実施等)	
⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染に対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本事項 3. 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本事項 5. 院内感染発生時の対応に関する基本事項 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他院内感染対策推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染管理組織とシステムの構築 2. 院内感染サーベイランス 3. 感染に対するコンサルテーション 4. 感染管理教育 5. 職業感染防止 6. 感染防止技術:マニュアル作成・改訂 7. ファシリティ・マネジメント <p>・委員会の開催</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 月1回年間12回の定例開催 2) 委員数28名 3) 年度平均出席率 75.7% 	
③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>【全職員対象】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「大学病院における感染・医療安全対策」 開催日時:2009年7月24日 講師:一山 智 京都大学附属病院副院長 2) 「NICUの感染対策」 開催日時:2009年8月7日 講師:青木雅子 富山大学附属病院NICU副看護師長 3) 「新型インフルエンザを知ろう」開催日時:2010年3月9日 講師:村木 靖 生体感染防御学 准教授 <p>【新採用者対象】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 全員「新入職員オリエンテーション」開催日時:2009年4月2日 2) コメディカル対象:開催日時:2009年4月2日 3) 研修医対象:開催日時:2009年4月7日 4) 看護師対象:開催日時:2009年4月6日 <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師2年目・准看護師対象:開催日時:2009年6月15・22日 2) 看護補助員対象:開催日時:2009年9月4・17日 3) リンクナース対象:開催日時:2009年9月25日 4) 帰局職員及び中途採用者対象:開催日時:12月7日 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>感染症対策マニュアルの改訂</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染管理体制の中で、リンク委員規定・感染制御部門の運営基準内容を変更し追加した。 2) 感染症法に基づき届出が必要な感染症、鳥インフルエンザ・擬似症を追加し食中毒を削除。 3) 針刺し・切創、粘膜暴露の内容を修正 <ul style="list-style-type: none"> ・受傷者は、全て消化器内科に受診から受傷する原因となった相手の主治医・代行医・担当医に受診し、検査結果により、HBs抗原陽性・HCV抗体陽性の場合は消化器内科、HIVのリスクがある(疑いがある)場合は血液・リウマチ膠原病科が診察を担当する。 4) その他事務組織変更に伴う箇所を変更した。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・活動の主な内容</p> <p>人工心肺及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー発生装置等の装置、機器類について年2回の研修を実施。研修内容としては主に各機器の安全性、有効性、基本的な操作方法、保守管理、トラブル時の基本対応、そして関連する法令等の遵守事項等について実施している。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・保守点検の主な内容 機器管理部門であるME部が機器の保守管理をおこなっている。管理機器保守点検計画書(人工心肺及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー発生装置等を含む)の年間計画に従って実施し、基本的にはメーカー提供の機器マニュアル及びメーカー指示(点検内容、点検期間、頻度)に従いチェックシートを作成し臨床工学技士が保守管理(通常点検、定期点検)を行っている。また人工呼吸器等、主要ME機器のオーバーホール等はメーカーに委託している。(注:診療用高エネルギー発生装置は中央放射線部管理)</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容 主としてメーカー、日本臨床工学技士会及び医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページ、またはPMDAからのメール配信サービス、加えて各種機器納入事業者等より関連情報を入手。院内の各関連部門へ通達文書、メール等により周知し必要時にはメーカーSEまたは事業者と共に機器管理部門(ME部)の臨床工学技士スタッフが協力し当該部門への直接対応を行っている。</p>	

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・活動の主な内容</p> <p style="text-align: center;">平成22年4月10日 麻薬の取り扱い及び処方箋の書き方 対象:研修医 平成22年9月9日 麻薬及び向精神薬の取り扱い 対象:研修医、看護師、薬剤師 (予定)平成22年11月 ハイリスク薬及び注射薬の取り扱い 対象:研修医、看護師、薬剤師</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	年 1 回
<p>・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・業務の主な内容 病棟・外来のチェック事項を調査し、確認する。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p>	